

参加される方への説明文書

プロジェクト責任者名：岡村耕二（九州大学 サイバーセキュリティセンター）

試験責任者名：錦谷まりこ（九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター）

研究課題名：「超高齢社会支援への IoT 技術適用に関する日米異文化比較研究」

はじめに

この説明文書は、あなたにこの研究の内容を正しく理解していただき、あなたの自由な意思に基づいて、この研究に参加するかどうかを判断していただくためのものです。

この説明文書をお読みにになり、またはこの研究を実施する人からの説明を聞き、十分に考えてからこの研究に参加するかどうかを決めてください。たとえ参加されなくても、今後のあなたの不利益になることはありません。また、不明な点があれば、どんなことでも気軽に質問してください。

1. 臨床観察研究について

九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンターでは ICT（情報通信技術）を利用したコミュニケーションと孤立に関わる健康状態を調査し、健康を維持・増進する ICT 利用の有用な情報を社会全体へと提供できるように調査研究を行っています。研究上、調査する内容に個人の生活習慣や行動など健康情報を含みますが、調査対象者へ積極的な働きかけ（介入）をしないため、このような研究を一般に「臨床観察研究」といいます。

今回の研究の実施にあたっては、九州大学医系地区部局臨床研究倫理審査委員会の審査を経て、研究機関の長より許可を受けています（許可番号 2020-582）。この研究は令和 7 年 3 月 31 日まで実施が許可されています。

2. 研究の目的や意義について

この研究調査では、ご高齢の方の抱える健康や自立の問題と関連して、お仕事などの社会活動や地域の生活の様子などを伺い、携帯電話やインターネットなどの情報通信技術をいかに活用していくかを考えるための資料を得ます。得られた研究資料は、アメリカの研究者らが同様に高齢者から伺って得られた資料と比べます。高齢化が進む先進国として、ご高齢の方が健康維持し、自立した生活を長く継続していくために必要な条件や情報通信技術を明らかにすることが本研究の目的です。

一般的に仕事を辞めたり、健康状態が少しでも低下していくと、人との交流の機会が減り、気持ちが減入ったり、次の活動へ取り組む気持ちが失せたりします。そうするとますます健康状態が悪くなり、生活の質が落ちてしまいます。携帯電話やインターネットなどの情報通信技術をうまく活用することで、交流の手段が増え、生活を楽しむことが出来ると考えられるため、この調査にご協力いただくと、有効な情報通信技術の使い方を明らかにでき、また、それを応用することで多くの人の生活の質が上がることを期待されます。

3. 研究の対象者について

今回の研究では、公益社団法人（福岡県高齢者能力活用センター）の許可を得て、名簿等から性別や年齢等の条件に合う方を無作為に抽出していただき、法人のご協力のもとで調査を依頼しています。（なお、研究者は対象者の名簿等の個人情報を見ることはありません。）

研究の対象になる方は、ご年齢が 55 歳以上で、支援や介護を受けずに、それぞれの地域で独立して生活しておられることを前提にしています。支援や介護を受けたり、高齢者用の生活施設等（ホームなど）で共同生活され

ている方は研究の対象としていません。どうぞよろしくお願ひいたします。

4. 研究の方法について

この研究への参加に同意いただきましたら、資料をよく読んで研究参加の意思を表示したのちご回答ください。

この研究では、退職前後の年齢にあたる方へアンケート調査を実施し、退職前後の生活や社会活動、情報通信機器の利用等について調査をします。アンケートで記入した内容は、研究情報として集計・分析します。すでに公表されている研究情報などと比べ、ご高齢の方の交流や健康、生活の状況を明らかにしていきます。

研究参加の同意が得られた方については、以下の情報を伺います。

<基本属性>

性別、年齢、退職(予定)年、退職前の就業分野、居住形態、居住地域

<調査内容>

新しいことへ取り組む際の感じ方や考え方、交流、社会活動や生活行動習慣、健康状態
情報通信機器の利用状況・興味、ICT リテラシー、IoT への考え、就労意欲や動機、生きがい

この研究は、今後の情報通信機器に関連したセミナー・ワークショップを開く際の計画作成に役立てます。さらに他の大学にいる共同研究者とともに、あなたの回答によって得られたデータを共有し、詳しい解析を行う予定です。共同研究者は、聖カタリナ大学の有吉美恵博士(助教)、アメリカのメリーランド大学ボルティモア校のダナ・ブラッドリー博士(教授)、同じくアメリカのノースイースタン大学のパベル・ミシャ博士(教授)です。

5. 研究に関する利益と予測される負担や不利益について

あなたがこの研究に参加することにより直接受ける利益として、研究対象者として適合し、希望すれば謝礼を受け取ることができます。

また、予測される負担や不利益として、可能性は低いと思われませんが、質問項目によっては過去の出来事を思い出して気分が悪くなるかもしれません。また、回答には 10-30 分程度を要するため、時間的に拘束されて疲れることも考えられます。

6. 健康被害が発生した場合の対応について

この研究では、匿名で質問に答えていただくのみで、健康被害が発生することはないと考えられることから、特別な補償制度はありません。

もし、回答の途中で気分が悪くなったりした場合は、すぐに作業を中止し、休まれてください。

7. 経済的な負担や謝礼について

あなたには調査回答のための時間をお願いしますが、経済的な負担を求めることはありません。ただし、対面で調査に参加される場合は、ご希望の場所へ来ていただくための交通費をご負担いただくことがあります。もしくは、インターネットや電話などの通信システムを使って調査に参加される場合は、通信費用をご負担いただくことがあります。これらのご負担に関しては、今回は謝礼をご用意していません。

あなたが質問に全て回答し、条件に適合して希望する場合にクオカードによる謝礼(予定額 1,000 円)をお渡しすることができます。その際は、クオカードの送付先として有効なご住所とお電話番号を伺いますが、連絡先等の情報はこの目的以外に使いません。

8. 研究への参加とその撤回について

この研究への参加はあなたの自由な意思で決めてください。同意されなくても、あなたの紹介者やあなた自身に不利益になることは全くありません。

また、いったん同意した場合でも、調査回答を完成させる前までであれば、あなたが不利益を受けることなく、いつでも同意を取り消すことができます。

アンケート調査の途中で同意を取り消された場合は、途中まで回答した内容があっても、以降はこの研究目的にそれらを用いることはありません。ただし、回答を完成させて提出・送付した後で同意を取り消す場合、あなたの回答した内容は「匿名状態」で保存されてしまうため、そこから抽出して破棄することは困難で、完全に廃棄できないことがあります。

9. 個人情報の取扱いについて

あなたの情報をこの研究に使用する際には、あなたが容易に特定できる情報を削除して取り扱います。この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、あなたが特定できる情報を使用することはありません。

この研究によって取得した情報は、九州大学サイバーセキュリティセンター、センター長 教授・岡村耕二の責任の下、厳重な管理を行います。

あなたの情報を共同研究者とともに分析する場合、九州大学にて上記のような処理をした後に行うので、あなたを特定できる情報が外部に送られることはありません。

10. 情報の保管等について

この研究において得られたあなたの情報等は原則としてこの研究のために使用し、研究終了後は、九州大学サイバーセキュリティセンターにおいてセンター長 教授・岡村耕二の責任の下、10年間保存した後、研究用の番号等を消去し、廃棄します。

また、この研究で得られたあなたの情報は、将来計画・実施される別の研究にとっても大変貴重なものとなる可能性があります。そこで、あなたの同意がいただけるならば、前述の期間を超えて保管し、将来新たに計画・実施される医学研究にも使用させていただきたいと考えております。その研究を行う場合には、改めてその研究計画を倫理審査委員会において審査し、承認された後に行います。

11. この研究の費用について

この研究に関する必要な費用は、国立研究開発法人科学技術振興機構の戦略的国際共同研究プログラムの一つである日米研究交流：次世代社会のためのデジタルサイエンス事業による研究費、および寄付金（飯島藤十郎記念食品科学振興財団2020年度特定課題研究等助成金）でまかなわれます。

12. 利益相反について

九州大学では、よりよい医療を社会に提供するために積極的に臨床研究を推進しています。そのための資金は公的資金以外に、企業や財団からの寄付や契約でまかなわれることもあります。医学研究の発展のために企業等との連携は必要不可欠なものとなっており、国や大学も健全な産学連携を推奨しています。

一方で、産学連携を進めた場合、患者さんの利益と研究者や企業等の利益が相反（利益相反）しているのではないかという疑問が生じる事があります。そのような問題に対して九州大学では「九州大学利益相反マネジメント要項」及び「医系地区部局における臨床研究に係る利益相反マネジメント要項」を定めています。本研究はこれらの要項に基づいて実施されます。

本研究に関する必要な経費は国立研究開発法人科学技術振興機構の戦略的国際共同研究プログラムの一つである日米研究交流：次世代社会のためのデジタルサイエンス事業による研究費、および寄付金（飯島藤十郎記念食品科学振興財団2020年度特定課題研究等助成金）であり、研究遂行にあたって特別な利益相反状態にはありません。

利益相反についてもっと詳しくお知りになりたい方は、下記の窓口へお問い合わせください。

利益相反マネジメント委員会

（窓口：九州大学 ARO 次世代医療センター 電話：092-642-5082）

1 3. 研究に関する情報公開の方法について

この研究に参加してくださった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。資料の閲覧を希望される方は、どうぞお申し出ください。また、この研究では、学会等への発表や論文の投稿により、研究成果の公表を行う予定です。

1 4. 特許権等について

この研究の結果として、特許権等が生じる可能性があります。その権利は九州大学及び共同研究機関等に属し、あなたには属しません。また、その特許権等を元にして経済的利益が生じる可能性があります。これについてもあなたに権利はありません。

1 5. 研究を中止する場合について

研究責任者の判断により、研究を中止しなければならない何らかの事情が発生した場合には、この研究を中止する場合があります。なお、研究中止後もこの研究に関するお問い合わせ等には誠意をもって対応します。

1 6. 研究の実施体制について

この研究は以下の体制で実施します。

研究実施場所（分 九州大学病院メディカル・インフォメーションセンター

野名等） 九州大学サイバーセキュリティセンター

研究責任者 九州大学病院メディカル・インフォメーションセンター

特任准教授 錦谷 まりこ

研究分担者 九州大学・サイバーセキュリティセンター・教授・岡村 耕二

九州大学・基幹教育院・教授・木實 新一

九州大学・アジアオセアニア研究教育機構・准教授・横田 文彦

九州大学・情報基盤研究開発センター・助教・谷本 輝夫

共同研究施設 及び 試料・情報の 提供のみ行う 施設	施設名 / 研究責任者の職名・氏名	役割
	① 聖カタリナ大学・人間健康福祉学部・助教・有吉 美恵	情報収集・提供
	② メリーランド大学ボルティモア校 (UMBC), エリクソン老年学研究院・研究院長/教授・ダナ ブラッドリー	解析情報の提供
	③ ノースイースタン大学(NEU), コーリーコンピューターサイエンス学部&ボウブ健康科学学部・教授・ミシャパベル	解析情報の提供

